

Topic 1

◇ 全学年必読！ 夏の学習計画 パーフェクトマニュアル

夏休みの過ごし方で、受験生はもちろん高1・高2生も学力の伸びに大きな差が出てしまいます。「これをやり遂げた！」と胸を張れる夏休みにするために、また「私の受験の成功は夏休みの過ごし方にあった！」と言えるように、受験勉強のPDCAサイクル【注：計画①LAN→実行②O→評価③HECK→改善④CT】を実践していきましょう。

無計画な実行は成功したとしても偶然。多くの場合は失敗(後悔)に終わります。成功の裏には必ず計画立案(プランニング)があります。この夏にぜひ「成功するためのプランニング」を始めてください。

1 「計画PLAN」の立て方

①ステップ1：やるべきこと&やりたいことをリストアップ

やるべきこととは、必要に迫られていること(苦手科目の克服のために、問題集を1冊終わらせるなど)や学校の課題です。やりたいこととは、この夏休みに「これができれば成績が伸ばせるはず！」という自主的課題です(センター試験過去問〇年分の演習、志望校過去問〇年分の演習など)。思いっただけ書き出してみましょう。

やるべきことチェック

※以下の答えが「いいえ」なら、それはやるべきことです

- 英文法は、定期テスト(学校のテキスト)レベルのものなら、漏れなく解ける。
- 数学は、学校の教科書の章末問題レベルまでなら、どの単元でも解ける。
- 理科は、学校の問題集の基本問題・標準問題なら、漏れなく解ける。
- 社会は、定期テストレベルの問題なら、漏れなく解ける。
- 現代文は、いままでの模擬テストで7割程度は得点できている。
- 古文は、品詞分解ができ、単語がわかれば訳すことができる。

※やるべきことに挙げられたことが、自力でできない(できたとしても時間がかかり過ぎると思う)場合は、塾の講座を利用して、きちんと学力として定着させましょう。

リストアップしたら、取り組む問題集のページ数・問題数を確認して、おおよその所要時間の予測を立てておきます(例：易しめの問題集が60ページで、1ページあたり30分で終わるとしたら、1周するのに30時間、2周目は15~20時間)。

②ステップ2：はずすことのできない日程を確保

学校の講習、模擬テスト、塾の夏の講習など、予め分かっている日程や時間帯を計画表に書き込んで確保します。それらの前後にはそれぞれの予習と復習の時間をとります。

【注意】学校の進度が早くない人は、受験前に数Ⅲ・理科・社会などの受験範囲が終了しない場合があります。夏のうちに未学習分野をなくすために、先取り学習をしておきましょう(その先取り学習にはBasic Webがぴったりです！)。

③ステップ3：やるべきことを週ごとに振り分け

約6週間の夏休みとして、やるべきことを6分割して振り分けます。各科目まんべんなく振り分けます(※「社会は後回しにして一気にやろう」などと計画を立てた人で、成功した人はいません)。初めはレベルの易しいもの(英語なら、英文法)から、徐々に応用レベル(英語なら、構文解釈→長文読解)へとなるように割り振りましょう。

④ステップ4：その週に振り分けられたものを、一日ごとの計画に落とし込む

②で記入した日程・時間帯以外の枠に、③で振り分けたその週のやるべきことを振り分けていきます。受験生は、1日10時間×40日=400時間が受験勉強目標時間です。午前中3時間(9~12時)+午後4時間(14~18時)+夜3時間(20~23時)で1日10時間。できそうでしょ！ 午前中は数学や英語の読解など思考力を要するもの、食後の眠気が出てきそうな時間帯は社会のノート作りなどの作業系を、睡眠前の1時間は暗記物(今日の単語・熟語の復習や社会)をやるなど、脳科学の知見に則った割り振りをすると効果的ですよ。

計画倒れにならないためのポイント ⇒ 週に1度、計画を入れない「予備日」を設けましょう。それまでの「計画PLAN」が「実行DO」できているかを「評価CHECK」する日です。遅れが出ている場合は予備日に遅れを取り戻します。また今後の計画を立て直して、「改善ACT」を図ることも大切です。計画通りに進んでいる場合は、ご褒美日として自由に過ごすこともできます！

2 「実行DO」→「評価CHECK」→「改善ACT」のポイント

①ポイント1：

その日の計画を実行できたら計画表に自分で決めた「できたマーク」を書き込み、やり残したものは○で囲んで目立たせておきます。「いつやるのか？」まで書き込めると、より良く管理できます。(⇒1日ごとの「実行DO」と「評価CHECK」)

②ポイント2：

やり残したものは予備日までに完了させればよいです。予備日までに完了できないものがたまったら、「改善ACT」を行います。(⇒1週間ごとの「実行DO」と「評価CHECK」と「改善ACT」)

初めに余裕のない計画を立ててしまうと、計画が遅れたときに立て直しが図れません。やるべきことを週ごとに割り振り、1日ごとの「評価CHECK」と週ごとの「改善ACT」を継続していくことで、40日間の夏休みで最大の成果を得ることが可能になります。

※計画表は、学校指定のものがあればそれを使用してかまいませんが、俊英館オリジナルの計画表(別紙)もぜひ利用してみてください。



1 英検協会のTEAP 15年度入試で上智・立教・関西大が採用

日本英検協会は、5月21日から第1回アカデミック英語能力判定試験「TEAP」の申込を開始した。TEAPは、英検準2級～準1級程度が目安で、大学で必要とされる語彙・場面・分野を想定した内容で、アカデミックな英語に特化しているという。試験日は7月20日で、全国7都市で実施。今年度の試験日程は7月20日・9月20日・12月14日。来年度入試から、TEAPを英検協会と共同開発した上智大学が国際教養学部を除く全学部全学科で利用。また、立教大学、関西大学の一部入試でも採用する。

2 駒澤大 一般入試上位者に年間30万円の奨学金を給付

駒澤大学は、2015年度より、一般入試の受験生を対象とした給付型の奨学金制度を新設すると発表した。「全学部統一日程入試」の受験生のうち、得点上位100人以内の得点で合格し、第一志望の学科に入学した者に4年間給付されるという。また、一般入試T・S方式や、大学入試センター試験との併願も可能だという。

3 東京大 推薦入試説明会を全国7会場で開催

東京大学は5月21日、平成28年度から現在の後期日程試験に替えて導入する推薦入試について、8・9月に全国で説明会を開催すると発表。会場は、札幌、東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡の7会場。参加無料。事前申し込み不要。また、同日、推薦入試について寄せられた代表的な質問と回答を紹介するFAQもホームページ上に公開した。

4 お茶の水女子大 返済不要の入学前予約型の奨学金を給付

お茶の水女子大学は5月23日、平成27年度の入学前予約給付型奨学金「みがかずば奨学金」の情報を公開した。1年目と2年目に30万円ずつ支給される。入学を希望する経済的に困窮した状況下の学生を対象とした、返還義務のない給付型。採用者数は25人、申請期間は高校を通して9月1日から20日。10月に審査し内定者が決まる。ただし、入学を保障するものではなく、受験が必要。

5 埼玉大 理工系を強化

埼玉大学が「理工系」の看板を前面に押し出す改革に乗り出した。理工系の強化は、埼玉大が今春発表した平成30年度までの改革プランの目玉。人文社会系大学院の国際化や教職大学院の設置とともに、政府の「国立大学改革強化推進事業」に選ばれ、今年度は約3億円の補助金を受ける。理系戦略的研究部門としては、①ライフ・ナノバイオ ②グリーン・環境 ③感性認知支援 の3領域を掲げている。



東京大学



お茶の水女子大学



埼玉大学

◇ 大学入試を基礎から知る

第3回 <国公立大の入試の仕組みは？>

“定員の8割超は一般入試で募集”

国公立大は一般入試の募集枠が81%(2014年度入試)を占めており、まずは一般入試での受験を前提に準備をスタートさせましょう。

“センター試験+2次試験の合計点で合否を判定”

国公立大では原則として、1月に行われるセンター試験と、2~3月に大学ごとに行われる2次試験の合計点で合否が決まる。2次試験は「前期日程」と「後期日程」、そして「中期日程」(一部の公立大)の3期に分かれ、最大3回の受験が可能である。ただし、前期日程で合格し入学手続きをすると、後期日程(中期日程)を受験しても合格できない仕組みになっているため、第1志望校は前期日程で受験するのが基本である。なお、前期日程と後期日程の募集人員を比較すると、前期日程の比率が高く、後期日程は難関大を中心に廃止・縮小の傾向が続いている。

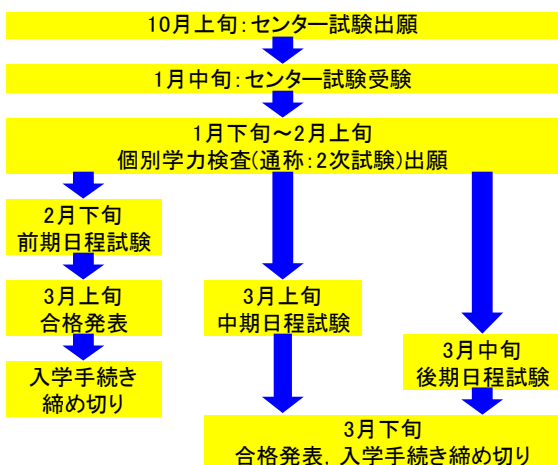
“センター試験は5教科7科目以上、2次試験は2~3科目が一般的”

センター試験では5教科7科目以上を課す国公立大が約7割に上る。特に国立大では5教科7科目以上を課す大学の割合が9割以上であるため、早めの対策が重要となる。一方、2次試験では2~3科目が一般的である。入学後に専門分野を学ぶ上で必要な科目、つまり文系学部であれば国語、地歴・公民、英語、理系学部であれば数学、理科、英語が課される。また、後期日程では、教科数を1~2科目に絞ったり、小論文や面接、総合問題などを課するのが特徴となっている。

“センター試験と2次試験の配点比率は、大学によって異なる”

センター試験と2次試験のどちらの点数を重視するかは、大学・学部によって異なる。センター試験と2次試験のどちらの対策をより重視すべきか、受験戦略にも影響が出てくるため、志望校の配点比率は事前に把握しておくことが大切である。中には、2次試験を行わず、センター試験の得点のみで合否を判定する大学もある。また、配点についても、センター試験と2次試験ともに、専攻する学問の基礎となる教科の配点を高くするパターンも多く見られ、たとえば理系学部では、数学や理科の配点が高くなるのが一般的である。

■国公立大入試のスケジュール



■センター試験と2次試験の配点比率の例

